

パチンコ・パチスロ産業合同賀詞交歓会開催
のめり込み防止に向けて、業界一丸！

ホール5団体
風営法検討会を設置
月1回程度の協議を



祝辞を述べる
加藤達也保安課長

パチンコ・パチスロ産業の業界14団体合同の賀詞交歓会が1月25日、東京・港区の新橋第一ホテル東京において開催された。

同交歓会は、遊技産業健全化推進機構の河上代表の発案で、業界各団体が行なっていた新年会を合同で行なう事になったもの。今回で3回目となる。14団体の代表が壇上に並び、全日遊連の原田理事長（「昨年様々な形で表れた業界団体の協力、団結の流れを、本年もさらに継続し、業界にとつて輝かしい年になるようご支援をお願いしたい」）、日工組の市原理事長（「昨年は日工組にとって厳しい1年だった。射幸性に



▲RSN代表・西村氏と握手を交す業界代表



全日遊連 原田理事長



日電協 里見理事長



日工組 市原理事長

頼った機械作りに邁進してしまっただけの結果と考えている。本年は、多種多様な遊技機の開発が最重要課題と考えており、併せてエンドユーザーを増やす政策も提案していきたい」と、日電協の里見理事長（「暗いことばかり考えても仕方ない。遊んで楽しい遊技機を、日電協でも開発し、出していきたい。」）が挨拶を行なった。また、来賓として、警察庁生活安全全局保安課の加藤達也課長が祝辞を述べた。主旨は以下の通り。

「パチンコは、わが国を代表する娯楽として親しまれているが、一方で依然として健全化を阻害する要因が残されているのも事実である。このような状況の中、当庁では、著しく射幸性の高い遊技機を規制すると共に、不正改造事犯への取締りを推進してきたところである。一方、業界におかれ

る。この他、これまで全日遊連が単独で支援していたばちんこ依存問題の相談機関：特定非営利活動法人リカバリーサポートネットワーク（RSN）を、今後業界14団体で支援していくことが決定している（昨年12月1日開催、パチンコ・パチスロ産業21世紀会において）が、そのRSN代表の西村直之代表と業界団体が壇上で握手を交わし、西村代表が、「年間1千件を超える相談を受けながら、さらに活動を広げる機会をいただいた。まだ力が足りません。楽しいことは皆さんの力で広げていただいで、そこで起こってくるリスクの部分は、我々が一生懸命取り組みますので、ご支援よろしくお願ひしたい」と謝辞を述べた。

向けての努力されることを期待している」



日遊協の深谷会長の音頭で乾杯！

全日遊連、日電協、同友会、余暇進、PCSAのホール5団体が、行政へ改善要望を行なっていくことを目的に現行風営法の問題点等を協議する（月1回程度）「風営法検討会」を設置したとの発表があり、5団体の代表が握手を交わした。

べた。